令和元年度 第２回向日市男女共同参画審議会 議事要点録

○ 日 時 令和元年１０月２８日（月）午前１０時から正午まで
○ 場 所 女性活躍センター　大会議室
○ 出席者
（委員）
竹井会長、岩野委員、高山委員、松田委員、松野委員、宮川委員、森田委員
（事務局・説明員等）
ふるさと創生推進部 清水部長
広聴協働課 小畑課長、忠田、西村
○ その他出席者
傍聴者　なし
○ 会議概要
１ 議事内容
（１）向日市民意識調査における調査票について
第１回男女共同参画審議会で審議後の修正案について事務局から説明を行った。
（２）向日市事業所意識調査における調査票について
令和元年度に実施予定の事業所意識調査における調査票（案）について事務局から説明を行った。

【意見の要旨】
ー議事内容（１）についてー
会　　長：表記の番号違いについて。Ｐ４「問１４でされた」という表記は「問６でされた」との修正が必要。
事 務 局：修正します。
委　　員：Ｐ６問１０①～⑫まであるが、⑪だけ「に関して」と付いていて、体言止めになっていないので「〇〇の取得」で止めておいた方統一性があって良いのでは。
事 務 局：委員ご提案のとおり修正します。
委　　員：Ｐ８問１６の５について、学校長、大学学長、大学教授と職位が大学教授だけ共通していないのではないか。設問の意図はどうか。
事 務 局：内閣府が２０１６年に行った男女共同参画に関する意識調査の設問と同様の設問としたが、その調査では「大学教授、学長など」となっている。
委　　員：内閣府の調査でも学校長は入っているということでいいか。
事 務 局：小学校の、小・中・高校の教頭、副校長、校長で別で回答するようになってい

るため、回答を分けることについて検討する。

委　　員：長と一般教員である教授が並記されているというのは分けた方が良いと思う。
設問と回答の意図が、組織の長に関してなら、学校長や大学学長のみの設問が適切であると思う。

会　　長：学校とか大学といった教育機関の管理をする長について回答を求めるという意図であれば、大学教授は回答から外す方が適切と考える。
職業と役職を一緒の（設問）で聞くのは難しいのではないか。
職種と、役職や管理職などの回答が混在しているのが、難しいのではないか。
前回アンケートで、同様の意図での設問の設定はあったか。

事 務 局：新規追加の設問であり、他市町村での状況を見て追加した。
女性活躍に関する設問として位置づけての設問。

会　　長：職業や役職を限定して聞くのがどうか。
どんな分野でも管理職の女性が増えた方が良いので職種を限定することが不自然ではないか。
例えば、向日市の職種や役職などの現状を表し、その現状について、女性の活躍が少ないと思う分野を問うといった設問なら答えやすいのでは。
今回の意識調査の意図や今後の計画への反映を考えると、設問の必要性について検討した方が良いのでは。

事 務 局：事務局で再考する。

委　　員：大学教授を外すという変更はどうか。

会　　長：それも一案と思う。

委　　員：しかし、設問が次にあげる職業や役職となっているため、職業の部分も問うている。設問の職業という部分を削除し、すべてを役職に統一すると整理できるか。

事 務 局：大学教授を取るという案での検討でよいか。

会　　長：取れば整合性が図れるのではないか。

委　　員：この設問に関して、アンケートを受け取った市民が、それぞれの職種などについて、女性の割合を大まかでも把握できて答えることが出来る現状にあるか。

事 務 局：現状を把握しての回答は困難なことが予測される。回答者の持っているイメージに基づいての回答となると思われる。

委　　員：現状が不明確な中で、得た回答について疑問を感じる部分もある。
「もっと増えた方がいい」という設問の「もっと」が曖昧さを持った表現であることから、現状が表されていないままに問うことがどうかとは思う。

事 務 局：現状を表してそれに関して「増えた方がよいかどうか」を問うというイメージ

でいいか。

会　　長：現状の提示があるなどの予備知識がないと答えづらい印象がある。例えば、１人もいないのと１人いるのでは印象が変わるのではないか。

委　　員：職種や役職に関する一般的なイメージと向日市の現状が違う部分があれば、現状を知って答える場合とそうで無い場合と答えが替わる可能性もある。

事 務 局：他市町で現状を一覧にして設問に載せているところがある。

委　　員：この設問で、どの程度まで答えを求めているかによって内容が大きく変わると思う。より詳しく、職種も役職も求めるなら、設問の設定の段階から、役職と職業を分けるべき。

そうではなく、印象として増えたら良いと思うところまでしか問わないのであれば、詳細な区別は不要かもしれないが。

どのような意図でこの設問を問うのかをもう少し明確にした方がいいのではないか。

事 務 局：設問の意図それに関連する内容について、再考する。

会　　長：問１６の設問そのものについて再考した方がよいのではないか。

事 務 局：問１６について、再考する。

委　　員：Ｐ１２の表記について。設問が一旦終わっているため、回答を終了する可能性が高いため、次にも設問があることを明記した方が回答漏れが出にくいと思う。

一般的なアンケートの印象として、「ご自由にお書きください」という設問が最後ということが多いので、次ページもあるということを追加して欲しい。

事 務 局：そのように追加する。

委　　員：Ｐ１３問３０の問が「ひとり暮らし以外の方のみ」となっているため、回答５の「いない」は不要となる。

事 務 局：設問と回答が一致するよう、「ひとり暮らし以外の方のみ」を取って「いない」を残すよう変更する。

会　　長：「すべての同居家族」で、大人だけで暮らしていて介護が必要な人がいない場合はどういった記入になるか。

委　　員：設問を変更し、次に掲げる人たちと住んでいるかどうかと言う聞き方をすれば回答しやすいのではないか。育児とか介護が必要な世帯かどうかを問うているので、以下の人達と住んでおられますかという設問でよいのでは。

事 務 局：そのように変更する。

委　　員：問２３については、説明であった他市の案がわかりやすいので採用して欲しい。

事 務 局：他市の案をベースに回答の順番を前回同様にして変更する。

会　　長：Ｐ7の問１２について、回答１はずっと職業を持ち続ける方がよいとなっているが、「～方がよい」という表現での回答は、違和感がある。
持ち続ける方がよいではなくて、好きな働き方を選べて好きな時にチェンジできる社会が自由な社会で、一様にみんなが働かなければいけないということを前提にした社会でいいのかという印象がある。「～の方がよい」という表現は、これが一番優位であるといった強い印象を受ける。

委　　員：私も「～がよい」といった断定した表現については、違和感がある。
すごく自由が狭められている印象がある。

委　　員：自分の考えに、どれが一番近いかという表現に変更し、回答の「～よい」という表現を削除してはどうか。

委　　員：表現の持つ印象が強いということであれば、「よい」という言葉が回答すべてに表現されているよりは「よいと思いますか」と１つの方がよいかもしれない。

委　　員：「～の方がよい」を全部消したらどうか。

事 務 局：「あなたの意識に近いものはどれですか。」といった表現の設問に変更し、良いかどうかを問う表現を削除する。

会　　長：そのように意識について聞くといった形の方がいいと思う。

委　　員：Ｐ６の問１０の⑦の「人事考課」というのは一般の人にはわかりにくくないか。

委　　員：専門的な表現であれば、人事考課になる。
基本的に仕事をしたものを評価するのは、人事考課という表現で現す。
能力評価や業績評価はその中の項目となり、より細かい分類になる。

委　　員：業績評価という表現であれば、誰が見ても分かると思うが、人事考課という表現になると、一般の人が答えるときには躊躇することも考えられる。

事 務 局：人事考課という表現については、事務局で再考する。

委　　員：同設問で、「あてはまらない」というのは、どのような場合に選択するのか。例えば、「①募集・採用の仕方」・・男性の方が優遇されている・平等である・女性の方が優遇されている、にあてはまらないと回答する場合はどういった現状となるのか。

会　　長：職場によっては男性のみのところや女性のみのところがあるのではないか。現状そうなっていれば、当てはまらないと回答することになるのではないか。

委　　員：フリーランスで働いている場合や個人事業主は、あてはまらないとなるのでは。例えば、募集そのものがなければあてはまらないという選択になる。

会　　長：Ｐ９の「暮らしや家庭生活について」育児関係や介護に関する項目について、現状が、該当していなければ、「その他」と回答するといった認識で良いか。

事 務 局：この設問についても、先ほどの項目と同様の解釈で「あてはまらない」という

回答を追加する。

会　　長：「あてはまらない」を追加した場合、あてはまらないと選択する場合はどういった時なのかがイメージしやすいように、該当する現状がない場合は、「あてはまらない」を選択してくださいという注意書きを追加してはどうか。

事 務 局：注意書きを追加する。

委　　員：食事の支度などは、すべての人が行う現状にあるので「あてはまらない」に斜線を入れておくなど、項目によって書き分けてはどうか。

委　　員：問１３の「女性が仕事を辞めずに」や、問１４の「女性が再就職のとき」の働く、再就職というのは正社員として働くことを指しているという解釈になるか。パートやアルバイトなどの勤務も含めているという解釈になるか。

事 務 局：雇用形態の詳細について想定した設問ではない。

委　　員：介護、出産、子育てなどの理由で、離職し、再就職となると一番重要となるのが、回答５の育児や介護のための施設やサービスと考えられるが、この表現では、曖昧でわかりづらいため、具体的な名称の方が良いのではないか。

例えば、保育所や留守家庭児童会と表現すれば、回答者は選択すると思われるが、「育児のためのサービス」では、何を指しているかイメージしづらいと思われる。表現を具体的に修正してはどうか。

回答をよく読めばわかるが、ぱっと見てわかりやすいことが重要でないか。

委　　員：よりイメージしやすく、わかりやすくするためであれば、５番の回答を２つに分けて、留守家庭児童会のような育児のための施設やサービスで１回答項目とし、介護のための施設やサービスについての回答で１回答項目としてはどうか。

事 務 局：そのように追加・修正をする。

委　　員：問１４の「出産」を取って、子育て・介護、もし可能であれば、自分の病気を入れた設問に変更してはどうか。子育てと介護だけを離職の要因として、クローズアップすることに限局しないでもいいのではないか。

委　　員：仕事を辞める理由はいくらでもある中、要因すべてを聞くことは困難であるし、アンケートが男女共同参画や、女性活躍についての基礎資料となるものだから、広げすぎるのもどうか。

委　　員：問 12 からの流れからすれば、女性の働き方について聞こうとしているのであって、色々と聞き出すと、ほんとに何のためのアンケートになってしまうかのとなるため、設問を限局する必要性もある。

会　　長：議題１については以上で一旦終了する。意見がある場合は後日事務局へ。

ー議事内容（２）についてー

委　　員：問１５の選択肢の１　「配偶者出産休暇制度」に※１印があるが、その説明※が無い。

事 務 局：制度説明を追加する。

委　　員：問１０について、復帰予定だが、まだ復帰期日ではない場合の回答はどの選択肢になるか。

委　　員：設問を変更し、「利用したあと、従業員はどの程度職場復帰していますか」という表現にすることで回答しやすいのではないか。

事 務 局：そのように変更する。

会　　長：問１１について、１１－１の設問と１１－２の設問を回答対象者がわかりづらい。

事 務 局：ページレイアウトや表現方法を検討し、問１０から続く設問であること及び回答対象であるかわかりやすいよう修正する。

会　　長：事業所意識調査回答率について、どの程度回答がありそうか。

事 務 局：前回の回答率が低率だったため、予測は困難。

会　　長：質問数が多いと回答しづらいことも予測されるので、出来るだけコンパクトな方が良いので、原案の質問数１８で最低限だと考える。

また、回答方法について、簡単に回答できるようインターネットなどを使用した回答方法は困難か。

委　　員：スマートフォンでのアンケート調査の一部に、一旦回答が進むと途中で一旦中止できず、最初からやり直しになるタイプのものがある、それだとかえって、面倒に感じることがある。その人がやりやすい方法で回答できる選択肢が必要ではないか。

会　　長：確かに、紙の方がいい人は紙で、ＱＲコードなどを用いてインターネットで回答したい人はその方法でと選べるといい。

事 務 局：今年度の調査においては多様な方法での回答については困難であるが、今後において検討する。

会　　長：議題２については以上で審議終了とする。意見がある場合は後日事務局へ。

事務局から次回の日程について説明をお願いしたい。

事 務 局：２月～３月頃に審議会を開催予定である。年末頃に日程調整のうえ開催する。